

補習校だより

2018年12月23日発行



シャベアルダー(冬至)も終わり、イランの暦は冬になります。シャベアルダーは、皆さん家族で過ごされたのでしょうか。イランでは一番夜が長いこの日を、家族や親戚で集まりお祝いするのが習わしです。一番寒い時期ではありますが、春のノウルーズに向けて陽が一日一日延びていく希望の夜を、家族で暖かく囲みます。日本でも年末年始はクリスマスや大みそか、お正月といった家族や親しい人と集まる行事が多い時期ですね。どちらも気持ちが華やぐ、楽しい時です。

そしてイラン現地校の中間テストが始まりましたね。寒さに負けず体調管理をしっかりして、補習校でも元気にがんばりましょう。



今月(デイ月)の予定

	イラン暦	西 暦	
第13回目授業	1397/10/6 パンジシャンベ	2018/12/27(木)	通常授業
第14回目授業	10/13 パンジシャンベ	2019/ 1/3(木)	通常授業 アートフラワー教室
第 15回目授業	10/20 パンジシャンベ	1/10(木)	通常授業
休 校	10/27 パンジシャンベ	1/17(木)	新年祝賀会



行事報告 公開授業とバザー

12月6日(木)公開授業とバザーを行いました。今年度は補習校生とその家族だけではなく、ご来賓や同窓生の参加も多く、おかげ様でたいへん盛況でした。ご足労いただき深く感謝いたします。

公開授業では、普段の授業の様子を皆様に見学していただきました。いつもと違い見学者がいる中の授業、教師も生徒も緊張感があつたようですが、皆様に補習校の活動を知っていただくのに大変よい機会になったと思います。また、同窓生やその保護者にとって、授業風景は懐かしく映ったのではないのでしょうか。

バザー会場で、立派に成長した同窓生や補習校生が歓談している様子も印象的でした。バザーも皆、お買い物を楽しんでくださり、たくさんの売り上げがありました。売り上げは補習校の運営費として大切にに使わせていただきます。

皆さま、ご協力どうもありがとうございました！



☆作文紹介☆

公開授業で発表した長谷川先生クラスの作文を紹介します。このクラスは4・6年生の合同クラスで、今回読んだ教科書の単元がどちらも「戦争と平和」がテーマでした。皆それぞれが考える「戦争と平和」について書いています。

『平和について』 四年 原えりか

平和という言葉から「家族・家・せんそうがない事・食べ物」などが思いつきます。

わたしは、平和とはみんなが元気で家族といっしょで家があり、食べ物がたくさんあることだと思います。

調べてみました。平和とは、「せんそうや内せんで社会がみだれていない事」です。

わたしの日本のおじいちゃんは、せんそうの中で生まれたので、あの時代は、食べる物がなかったと言っていました。

もし家族がせんそうで死んでしまって一人だけのこされたらすごく悲しいです。あと、お父さんがせんそうに行ってしまったら、なみだがでそうです。

一番大切なのは、せんそうがない世界、みんなが悲しむことをしてはいけない事だと思います。今わたし達に出来る事は、ただ一つせんそうにならないためにいのる事です。

『平和』 四年 福嶋ティナ

わたしの平和は友達だと思います。今はイジメやあぶないことなど、いろんなことが学校にあります。イジメがなかったらどんなに平和でしょう。イジメられた人はどれだけつらいことかわかります。わたしもいじわるをされたことがあります。イジメられる人は友達を作りたいと、きっと毎日思っていると思います。そしたら友達にそうだんできるからです。イジメている人は、人の気持ちがわからない人です。イジメている人は人の気持ちがわからないので、どんどんエスカレートしていきます。なのでイジメられている人はゆうきをもってせいとに話してみると、もしかしたら友達ができ、楽しいじきがまた来るかもしれません。

『ぼくの考える平和』 四年 サファリ明日漢

テレビを見てみると、時どき戦争をしている国ぐにのニュースがやっています。家がなくなってしまった人たちやけがをした人たちがたくさんいます。

今のイランは、せんそうはしていないけれど、物が高くなってみんなの生活は、たいへんそうです。ぼくは食べ物もねる場所もあります。これが平和なのかもしれません。

だから、ぼくは大きくなったら、イランのお金のかちを上げたいです。そして、イランの人たちが平和にくらしていけるようにしたいと思います。

『戦争について』 四年 長谷川アナヒタ

みなさん、戦争はどうやって起きますか？

わたしが思ったのは、始めに国と国の小さいけんかが、だんだんはげしくなり戦争が起こります。まさに、イランとアメリカみたいに。でも、いつ戦争が起こるのかは、わたしたちは、知りません！1980年の9月22日に始まったイラン・イラク戦争は、1988年の8月20日に終結しました。イラン・イラク戦争は、8年間でした。戦争としては、とても長かったです。もしわたしがあの時代にいたら、かく実に死んでいました。

もしこれからもちがう国で戦争が起こったら、人びとが苦しむので、みなさんで平和をのぞみましょう。

『平和について』 四年 鈴木快実

ぼくの考える平和とは、家族といっしょにおいしい食事ができること、安心してねる場所があること、友達と学校でいっしょに勉強して遊べることです。

しかし今の地球上では、ぼくの考える平和なくらしができない国もあります。イランの近くのシリアでは、ミサイルが飛んでくるかもしれないから、自分の家なのに家族といっしょに、そこで生活できない人がたくさんいると、お母さんが言ってい



ました。学校で友達と遊べないなんて、不幸です。悪いことをしていないのに、せんそうにまきこまれて、にげるように生活しなければならない人達は不幸です。

大人は、どうしてせんそうをするのでしょうか。ぼくに何かできることはあるのでしょうか。今は、わからないけれど、みんなが平和にらせるように、何か力になりたいです。

『平和』 六年 福嶋みな

平和の原点は、自分からの出発だと思います。まずは、自分を好きにならなければなりません。なぜならば、自分を愛さなければ人を愛する事が出来ません。しかし、それはけっして簡単な事ではないと思います。

自分を愛せば、人も愛せる、そして他人の気持ちを分かち合える事ができます。そうすると、いじめや差別などは無くなると思います。そうしたら、家族から自分の周りの友達や親戚、住んでいる地域や国、最後に世界の平和とつながります。今みたいな国と国の問題や戦争が無くなると、私は思います。

『平和』 六年 すずきあらし

戦争は人々が自分の権利を手にいれるために始まります。そして、国々は自分の国を守るために戦います。このわたしたちが行っている戦争は意味がありません。なぜならこの戦争は、自分たちのいかりを人々に見せつけるためだけだからです。

わたしたちは、この世界から平和と友情をわすれてしまいました。

「なぜ、戦争をするのか？」

「なぜ、あいてにぼう力をふるうのか？」

自分に聞いたことはありますか？わたしたちは、このような質問を自分にすることとで、戦争をふせぐことができると思います。

平和とは、友情と思いやりです。世界のそれなしでの進歩はありえません。

『平和について』 六年 奥山ティナ

今、私達は家族が一緒に、家があって食べる物があるのと、生きている事が幸せだと思います。もし戦争になったら、家族がばらばらになったり、食べ物が無くなったり、もしかしたら生きていないかもしれません。

私のお父さんは、戦争に行った事があります。とても大変だったそうです。お父さんのお母さんは、いつも心配して泣いていたそうです。私は戦争をしりませんが、世界では、戦争で悲しい思いをしている人がたくさんいると思います。世界のみんなが仲よくなって、せんそうやあらそいがなくなる事が平和だと思います。そのために自分ができる事は、まだよく分かりませんが、世界には、食べ物を食べられない人がたくさんいます。私は、食べ物や水をむだにしないようにしたいと思います。

『平和』 六年 鈴木愛良瑠

最近ニュースで、一部の国々の安全がなく毎日おびえてくらしている人々の姿

を見る事があります。それらの国では、人々が安心してくらす事もままならない様子です。女性たちも悲鳴を上げて逃げまわり、子供達はが死してしまうか、どのように命を失わないように生きるかという事ばかり考えています。このような映像を見ると戦争なんてなければいいのに、全ての国が平和になればいいのにと願います。でもこのような事を口で言うだけでは世界平和につながりません。

世界は戦争に陥っています。なぜなら平和を見失ってしまったからです。人間は富と権力を欲してばかりいます。そのためには全ての事を見ぬふりをして、自分の都合のよいように、ほかの人を犠牲にし殺人までおかし、平和をにぎりつぶしてしまいます。彼らは今はわからないけど、いつの日か、どのように世界を血みどろで、きたない世の中に変えてしまったという事に気づく日が来るでしょう。

平和は、一つのほほえみから始まります。わたしたちもおたがいに、ほほえむ事から始めたらどうでしょうか。

平和は、強制的には成立しません。平和は、おたがいを理解する事から成り立つのです。



バザーについての作文を紹介します。

『うれしい買い物』 三年 青山あいさ

十二月六日、わたしは、ほ習校のバザーへ行きました。一年ぶりだったので、とてもドキドキしました。去年より人が多い気がしたので、少しこわかったです。

はじめのお店で買った物は、えんぴつキャップです。しかの絵でとてもかわいかったです。

次にワッフルを買いました。ビニールにかわいいシールがはってありました。

それから、おまんじゅうとアメリカンドッグを買いました。バザーの前からアメリカンドッグを楽しみにしていたので、うれしかったです。

「あと十本。」

と言われた時、大いそぎで列にならんでまた買いました。

それから、いろいろな物を買いました。とても楽しかったです。なぜかと言うと、学校の売店にないものが売っていたからです。

またこんども、楽しいバザーができますように。

『楽しかったバザー』 五年 かとうルミナ

十二月六日の木曜日は、日本語ほ習校の中で、バザーがありました。

昨年も外部の人は来ましたが、昨年より大勢の人が来ました。だから、わたしは食べ物を先に買い



ました。食べ物は色々な種類があったので、どれにしようか、なやみました。でも、何種類か買って自たくで食べました。その他には、ざっかや本も買いました。

日本語ほ習校のバザーは、一年に一度ありますが、とても楽しかったです。

『バザーに行って・・・』 五年 三星愛奈

先生の作ったおまんじゅう、ポテトとホットドッグを買いました。三つともおいしかったです。

私のお母さんは手作りパンを作り、売りました。私のお母さんは、ときどきそのパンを作り私は食べます。

バザーにはいろいろな物が売っていました。たとえば、アクセサリー、スライム、本、日本のおかし、ケーキ、かざり物と…

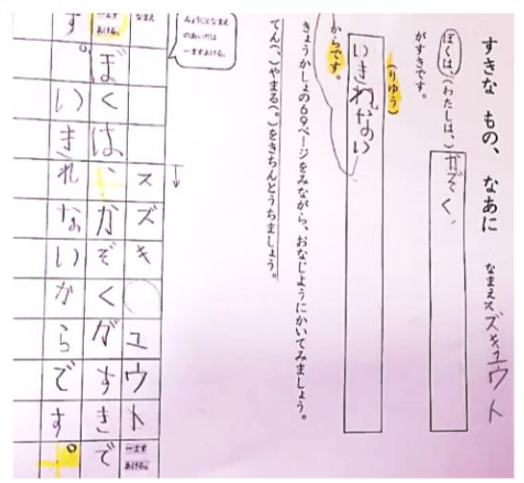
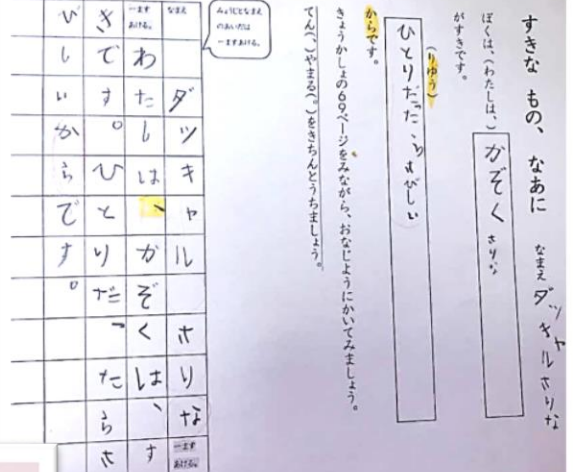
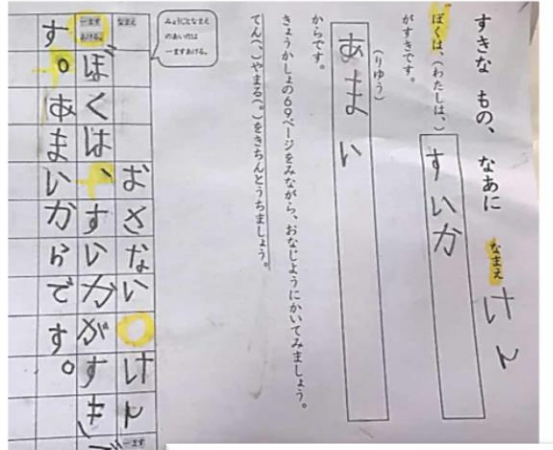
楽しい日でした。

『バザー』 五年 田中良杏

今年のバザーでびっくりしたのは、たくさんの物があった事だ。混んでいたのも物が見つらなかった。さらに何か買ってあげようと思っていただけ買えなかった。

ぼくはスライムを買った。一番買ってよかったと思った物だ。このスライムはいいスライムで、熱中して遊べて、さらにも一緒に遊べるので買って良かった。

 一年生は日本語の勉強を始めてから、初めての作文を書きました。







6年生が書いたのは「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ短歌です。
日常の中に楽しみや喜びを見つけ、表現しました。



「たのしみは スライムづくり くせになる
ぷちんぷちんと いいおとがする」 奥山ティナ

「たのしみは ペコペコになって 家に着き
母の手料理 好物の時」 鈴木愛良瑠

「たのしみは 走って走って ランニング
風をかんじて 無心の時」 鈴木嵐

編集後記

2018 年も残りわずかになりました。イランの中で生活していると、街の様子はいつも通りで、ほとんど西暦が変わるのも気付かずに過ぎることもよくあります。だからこそ少し意識して、日常に日本らしさを取り入れて、子どもたちにもう一つのルーツである日本の文化を伝えてあげるのも大切だと思います。手のかかる事をしなくても、部屋の飾りや食事、子どもとの会話や遊びの中など、できる事から日本の季節感を意識してみるのはいかがでしょうか。イランと日本の新年の違いについて比べてみるのもおもしろいでしょう。



来る新年の、皆様の健康とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。